

本場・青島ビール

私はビールが大好き人間である。ちびちび飲むのでなく豪快に喉で味わいながら一気に流し込む。量は別にしてもビールを飲まない日はない。夏ともなれば中瓶にして2本は飲んでいるであろうか。特にサントリー・プレミアムモルツが私には合っているようだ。

霧なのか霧^{もや}なのかわからないが、視界は極めて悪く遠くまで見渡すことはできない。いつもこのような天気だと聞く。ホテルのレストランで水槽に泳いでいる魚、生きている貝、海老等を指名して海鮮料理を食べた。実に旨かった。しかし驚いたことに周りで食事する中国人達は、冷えたビールでなく常温でビールを飲んでいるのだ。中国の青島（チンタオ）に来て本場の青島ビールを飲める



ことを一つの楽しみにしていた私にとって、冷えてないビールは口に合わなかった。係にお願いしてビールに氷を入れて頂いた。味は日本のビールと違ってさっぱりした喉越しで、物足りないように思えたが、油を多く使う中華料理にはこのような軽やかな味わいが良いのかも知れない。

青島ビールは現在8種類ほどあり、世界50カ国以上で販売されている。その歴史は古く1903年青島がビールの本場・ドイツの租借地であったことからビール生産の技術を教えられる。つまりドイツの流れを汲んでいるのだ。

海に面している青島是北京オリンピックのヨットとウインドサーフィンの会場となった。道路もホテルも町中が整備され、西洋建築の赤い屋根と緑の木々も一層映えて見えた。しかし庶民の人達は現実生活を懸命に生き抜いている姿が印象に残った。

撮影 2010年夏

